

| 科目名 Course Name | | 開講年次 | 開講学期 | 曜日・時限 |
|---|--|--------------------------|----------------|-------------------|
| 介護過程 I Process Planning for Care Work I | | 1年 | 後期 | 別途、時間割参照 |
| 単位数 | 授業の形態 | 授業の性格 | | 履修上の制限 |
| 1単位 | 演習 | 選択 | (介護福祉士養成課程 必修) | 介護福祉士養成課程の学生のみ履修可 |
| 当該科目の理解を促すために受講しておくことが望まれる科目 | | | | |
| 特になし | | | | |
| 同時に履修しておくことが望まれる科目 | | | | |
| 特になし | | | | |
| 担当者に関する情報 | | | | |
| 氏名 | 研究室の場所 | オフィスアワー | | 電話番号・メールアドレス |
| 和田晴美 | 福祉棟 2F | 月・火・水・木の9時から16時（授業時間を除く） | | 授業中に指示します |
| 授業の概要 | | | | |
| 介護過程は、学んだ知識・技術を統合し、利用者個々のニーズを的確に把握して、求められる支援を導き実践する思考過程である。介護過程 I では、その思考過程が可能となるような、基本的な能力を養うことを目的とする。介護過程の意義や目的をふまえ、利用者の情報収集から計画立案、実施、評価、修正に至る一連の流れを理解できるように取り組む。 | | | | |
| 授業の目標 | | | | |
| ①介護過程を行う目的を、説明できるようにする。 ②介護過程の構成要素と、各段階で行う具体的内容が列挙できるようにする。 ③留意点をふまえながら、学生間での情報収集を実施できるようにする。 ④利用者個々のニーズを把握するための、情報収集の内容と方法を説明できるようにする。 ⑤利用者の視点で、目標が設定できるようにする。 | | | | |
| 授業の方法 | | | | |
| 介護過程の目的、構成要素について理解し、事例をもとに情報収集から実施・評価までの一連の介護過程を展開することで、「介護過程に沿った考え方」を学ぶ。学生間で互いに情報収集を行うことで、実施時の留意点を考えながら実践できるように取り組む。さらに、紙上事例を用いて計画立案までを行う中で、適宜課題の提出を課す。課題は添削し学生に指導後返却する。これを繰り返す中で、介護過程の展開が理解できるように進める。 | | | | |
| 学習の成果（学習成果） | | | | |
| 介護過程の一連の流れ（アセスメントから評価・修正）を習得したうえで、紙上事例を用いて利用者個々のニーズに合った計画を一人で立案することができる。 | | | | |
| 授業のスケジュールと内容 | | | | |
| 第1回目 | ガイダンス（シラバスにそって授業概要 授業の目標と学習の成果 評価方法等の説明） 介護過程とは何か | | | 【講義】 |
| 第2回目 | 介護過程の意義・目的・目標、介護過程の構成要素（アセスメントとは） | | | 【講義】 |
| 第3回目 | 介護過程の構成要素（計画立案、実施、評価） | | | 【講義】 |
| 第4回目 | アセスメント① 情報とは 観察とは 他者を観察する | | | 【講義・演習】 |
| 第5回目 | アセスメント② 情報整理 アセスメント1・2の記入 | | | 【個人ワーク】 |
| 第6回目 | アセスメント③ 情報整理 ICFの枠組みに沿った情報の整理 <課題提出①> | | | 【個人ワーク】 |

| | | |
|-------|--------------------------------|--------------------|
| 第7回目 | アセスメント④ 情報の分析・解釈・統合 全体図・関連図の構成 | 【講義・個人ワーク】 |
| 第8回目 | アセスメント⑤ 情報の分析・解釈・統合 情報の関連付けと統合 | 【講義・個人ワーク】 |
| 第9回目 | アセスメント⑥ 情報の分析・解釈・統合 | <課題提出②> 【個人ワーク】 |
| 第10回目 | アセスメント⑦ ニーズ・課題の抽出 | 【講義・個人ワーク】 |
| 第11回目 | 計画立案 目標の設定と方法の選択 | 【講義・個人ワーク】 |
| 第12回目 | 実施・評価とは | <課題提出③> 【講義・個人ワーク】 |
| 第13回目 | 事例による介護過程の展開① アセスメント1・2の記入 | 【個人ワーク】 |
| 第14回目 | 事例による介護過程の展開② ICFの枠組みで情報の整理 | 【個人ワーク】 |
| 第15回目 | 事例による介護過程の展開③ 分析・解釈・統合 | <課題提出④> 【個人ワーク】 |

成績評価の方法と基準

| 評価の領域 | 割合 | 評価の基準 |
|------------|-----|---|
| 授業参加態度 | 20% | 以下の視点で評価する。授業の準備が整い、講義・個人ワークでは集中しており、疑問点は積極的に質問して解決できること。授業で提示された課題が授業内で終わらない場合は自習しておくこと。 |
| レポート | 30% | 「介護過程」の練習課題で評価をする。評価基準Sは情報の分類が適切であり、情報をもとに分析・解釈が十分に行われ、課題・ニーズの表現が適切である。学習した内容や文献を参考にしながら計画立案していること。 |
| 調査報告書 | | |
| 小テスト | | |
| 試験 | 50% | 「紙上事例による介護過程」を試験とし、介護過程評価表に従って、①情報 ②分析・解釈 ③課題・ニーズ ④目標 ⑤計画の各要素の内容を評価する。評価基準Sは、評価表を提示して授業で説明する。 |
| 発表内容（態度含む） | | |
| その他 | | |

教科書と参考図書

新・介護福祉士養成講座 第9巻 介護過程 中央法規出版

履修上の留意点・ルール

講義・演習とも積極的に参加すること。やむを得ず欠席した場合は、必ずその部分の学習を補い、届出等は速やかに提出すること。課題の提出を繰り返し行うので、期限を厳守して提出すること。教室での飲食、机上への飲み物の放置も禁ずる。補習時間を設けるので、積極的に参加し、介護過程展開方法について理解を深めるよう努力してほしい。この授業は後期・前半のクォーター科目である。週2回の授業となるので、注意すること。